

7 結果まとめ(中間評価)

	強肯定割合平均	教職員	肯定的意見の割合	
			R7.7月	強肯定割合(%)
① 確かな学校づくりのある	47.8	1 学力向上プランに基づいて、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実による授業改善を推進している。	100	33
		2 児童に発表するときの姿勢や聞く姿勢を指導し、「話し合う力」の育成に取り組んでいる。	100	50
		3 児童に漢字の読み書き・計算の力が付くように、研究の取組に基づいて朝自習・帯タイムで取り組ませている。	100	50
		4 家庭学習の質の向上を図り、毎日きちんと取り組むよう指導している。	83	50
g	68.6	5 自分から、挨拶したり、返事するよう指導している。	100	87.5
		6 一人一人の児童を認め励ましなが、自己肯定感や自己有用感高める指導をしている。	100	71.4
		7 児童が楽しく学校生活をすごせるように指導している。	100	100
		8 掃除や給食当番、行事の取組では、縦割り班活動の充実が図られるように指導している。	100	71.4
③ 健康な体を育む学校づくり	65.6	9 体育学習の工夫や体育的行事の充実などにより、児童の体力向上を図っている。	100	0
		10 「早寝・早起き」「朝ごはん」などの生活習慣が身に付くよう、指導している。	100	80
		11 危険予測や健康的な生活等について指導し、児童自身による健康・安全管理能力の育成を図っている。	100	100
④ 地域と連携した学校づくり	63.5	12 年間を通して、地域のよさ(人的・物的資源)を生かした体験的な活動を計画・実施している。	83	0
		13 学級便り(月2回以上)や連絡帳、電話連絡など、積極的な情報発信や交流に努めている。	100	83.3
⑤ 力を教職員が活かす学校づくり	58.3	14 教育方針に基づき、共通理解・共通行動に努め、協力して行動している。	100	62.5
		15 校務分掌や各担当の業務を通し、課題を把握して積極的に学校経営へ参画している。	100	62.5
		16 退校目標時刻18時半とし、定時退校日(月2回以上)を意識して業務を行っている。	100	50

結果・分析
 ○どの項目も肯定的な回答の割合が高い。
 ○②温もりのある学校づくりでは、強肯定の割合が柱の中では最も高く、つながりや心地良い雰囲気をつくる指導や明るい学校作りを意識している。
 ○震災の後特に安全教育を配慮して行っている。
 ▲④「地域と連携した学校づくり」では、少しずつ地域学習を増やしているが、震災の影響で今まで通りの地域学習が困難なことが考えられるので、今後も状況に応じた内容に変換していく。
 ▲③「健康な体を育む学校作り」の「体力向上」について、強肯定が0%で、震災の影響で運動場が使えなかったという現状もあり、体力を高める運動に取り組むことが難しかった。

青: 強肯定の割合75%以上
 赤: 強肯定の割合40%未満

	保護者	肯定的意見の割合	
		R7.7月	強肯定割合(%)
1			
2	お子さんは、学校での出来事や学んだことについて、家で話をしていますか。	96	48
3	お子さんは、基礎的な学力(漢字・計算等)の力がついていてと思いますか。	80	32
4	お子さんは、家庭学習に取り組んでいますか。	100	32
5	お子さんは、自分から挨拶ができていますか。	88	60
6	学校は人間関係づくりを通して、いじめの未然防止に努めていると思いますか。	92	72
7	お子さんは 意欲的に登校していますか。	96	84
8	お子さんに家での役割(手伝い・自分の仕事)をさせていますか。	80	28
9	お子さんは 家の中や外で積極的に運動をしていますか。	80	68
10	お子さんは、「早寝・早起き」「朝ごはん」などの生活習慣が身に付いていますか。	96	52
11	学校は、避難訓練などの安全指導の実施や、病気やケガの予防の取組等、安心安全な環境づくりに努めていると思いますか。	92	80
12	学校は、地域のよさを生かした教育を推進していると思いますか。	92	80
13	学校は、方針や行事、児童の様子をお便りやホームページ等で分かりやすく伝えていてと思いますか。	96	80
14			
15			
16			

○学校の取組に対して肯定的な回答の割合が高い。
 ○項目4「家庭学習」は100%で、保護者も家庭学習を重視し、忘れずに行う・自主的に行うという意識が高くなっている。
 ○項目7「意欲的に登校」では、強肯定も高く、保護者も子ども達の意欲を感じ取っている。
 ▲項目8「お手伝い」については、震災の影響で、家庭環境・住居環境も変化していることが考えられるので蛸島小ファミリーデーの取組を今後も継続し、家族の一員として役割をもつ・家族のために行動することについての働きかけをする。
 ▲項目34「学習」について、強肯定が低いので、

黄: 成果面 緑: 課題面

	児童	肯定的意見の割合	
		R7.7月	強肯定割合(%)
1	友だちとの話し合いで、自分の考えを深めることができています。	96	76
2	自分の考えが友だちに伝わるように発表している。	100	60
3	学習した漢字が書けたり、計算ができたります。	76	36
4	宿題を必ずしている。	92	52
5	人に(大人や子ども)、自分からあいさつをしている。	96	64
6	困っていることがあったら、先生などに相談している。(相談しようと思う。)	88	44
7	学校は楽しい。	92	76
8	自分から、すすんで掃除や係の仕事、(行事の運営)をしている。	96	64
9	体育等でみんなと一緒に体を動かしている。	96	84
10	早ね・早おきの時間や朝ごはんを大切に生活している。	100	60
11	安全に避難する方法がわかったり、病気やけがの予防をして安全に生活したりしている。	92	68
12	自分たちが住んでいる地域の学習に興味がある。	84	56
13			
14			
15			
16			

○項目3以外どの項目も肯定的な回答の割合が高い。
 ○項目2「伝わるように発表」や項目10「早寝早起き朝ごはん」では100%で、全校児童が肯定的に捉えている。
 ○項目9「体を動かす」では強肯定の割合が高く、休み時間も積極的に運動をして楽しんでいる。
 ▲項目3「学習した漢字や計算ができる」では、強肯定も低く、自信がない、分からない、と捉えている児童が一定数いることがうかがえる。分かった・できたと感じられる授業を行い、基礎基本の力が身につくような取組を行っていく。

結果・分析
○項目2「話すこと」について、教職員・保護者・児童ともに肯定的意見の割合が高い。学校研究で取り組んでいることが話す意欲や、相手に伝わる話し方の能力の向上につながっていることが考えられる。 ▲5つの柱の中で、①の強肯定が一番低い。学力に対する自信が教職員・保護者・児童全般的に低い。授業改善や家庭学習の見直しを図り、漢字計算コンテストやハッスルデーの取組を2学期以降も継続して組織的に行っていく。 ○項目7について、強肯定の割合が最も高い。 ▲②の柱について保護者の強肯定の割合がやや低い。1人1人に活躍の場を与え、責任を持って役割をさせたり、心のケアに留意しながら人間関係づくりやいじめの未然防止や対応などを行っていく。
○継続的に行っている「規則正しい生活」の指導が浸透していることがうかがえる。 ○項目11で、安全に関する指導・取組について強肯定の割合が高い。今後も継続して、命を大切にするための指導を行う。 ▲体力の向上に向けて、学校で家でも運動をするような声かけなどをしたり、他の学校との交流で体力作りを行ったりする。
○情報発信についての強肯定の割合が高い。今後も地域や家庭に関連する情報をこまめに発信する。 ▲地域・保護者との連携を今後も図るために地域学習や交流を積極的に行う。
○どの項目も100%である。 ▲強肯定をアップさせるために、業務の効率化を図り、定時退校時間のお知らせをして、時間外勤務の意識をもつようにする。

—